阿見町における「かんしょ」導入による経営の向上

県南農林事務所稲敷地域農業改良普及センター

阿見町では関東ローム層の稲敷台地で多品目畑作経営が行われていますが、近年は新興住宅地や工業団地の開発が進み、農家の高齢化や担い手の減少も相まって耕作放棄地の増加が課題となっています。

こうした背景の中、「茨城かんしょトップランナー産地拡大事業」や「儲かる農業ステップアップ事業」等の県事業を活用し、「焼き芋ブーム」によって需要増加が期待されていたかんしょを基幹作物として導入推進し、経営体の販売金額向上を図りました。

町と連携したかんしょ新規作付推進

かんしょの導入推進にあたっては、阿見町や関係機関と密に連携しながら進めました。鹿行地域への先進地視察や新規生産者を主な対象とした講習会開催による技術指導を行った結果、同町のかんしょ作付面積は着実に増加し、令和元年度約８haから令和４年度には約27haと３倍以上になりました。

写真１　生産者と関係者を集って開催した講習会

写真２　育苗現地研修会（露地での種芋の伏せこみ）

自家育苗の推進

導入当初は購入切り苗を用いてのかんしょ作付けが主でしたが、形状品質等を低下させずに作付面積拡大を進めるには、より計画的な挿苗が必要であることから、育苗現地研修会の開催等により自家育苗の実施を啓発しました。令和５年度では同町の９経営体が自家育苗に取り組む予定となっており、新規取組者への育苗指導を重点的に行っていきます。

かんしょ導入による経営向上

これまでの活動により、かんしょを基幹作物として導入し、既存の品目（ねぎ、ばれいしょ、はくさい、にんじん、そば等）と組み合せて作付面積を拡大してきた主な経営体では、令和４年度の販売金額が令和元年度対比で平均37％増加するなど、経営向上が図られました。実需者からは更なる品質の向上が求められているため、要望に応えられる栽培体系の確立を支援していきます。

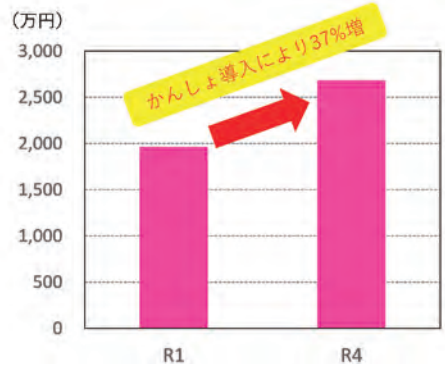

図１　かんしょ導入経営体の販売金額の変化
（主な経営体の平均）